



第10回目は**大桑村アルプス登山環境**の現状について報告します。

カレンダー上では夏も中盤となりました。今年も多くの登山者が伊奈川ダムから中央アルプスに入っていると思います。とても魅力的な山々に登ることができる伊奈川ルート、現状は決して登山者に優しいルートとは言えないようです。今回は大桑村アルプス登山環境がどうなっているのかを報告します。

登山道が大変なことになってる？

大桑村から中央アルプスに登るルートは3つ

本文中の赤字項目は地図上の赤字箇所を表しています。

中央アルプスへ登る3ルートの、伊奈川ダムゲートから登山口まで林道を歩く距離は長く、およそ以下のとおりです。

- ・ 空木岳登山口：約8km
- ・ 南駒ヶ岳登山口：約6km
- ・ 越百山登山口：約4.5km

①登山口駐車場跡：以前はダム上流に登山口駐車場がありましたが、現在は伊奈川ダムゲート閉鎖により車両進入禁止、車はゲート手前で路上駐車となります。また登山口駐車場跡に設置されているトイレは使用禁止です。



閉鎖されている伊奈川ダムゲート



伊奈川ダムゲート手前の路上駐車



登山口駐車場内トイレは使用禁止

空木岳登山道

個人的には空木岳登山道に最も心を惹かれますが最も行き難いルートで、難関は**③北沢渡り**です。過去に橋が流失したため新たに橋の設置をしましたが、数年前に再度流失、その後復旧はなく増水時は北沢を渡れません。役場はうさぎ平など北沢渡り上下に警告看板を出していますが、そこまで山に入ったら登山者は無理にでも渡るのかもしれませんが、今年5月に今朝沢分岐近くで**④林道崩落**があり、現在林道は現場手前で関係者以外立入禁止です。一方、倉本駅からの空木岳登山道(中八丁峠経由)は**②伊奈川渡り**で橋が流失してるので伊奈川を渡れません。



③北沢渡り橋流失現場



大桑村役場



②伊奈川渡り橋流失現場



④林道崩壊現場

南駒ヶ岳登山道

南駒ヶ岳の登山道は特に⑤北沢尾根の先で不明瞭になりつつあります。ハエマツが茂り、道を隠しているところがあります。ルート表示が消えているところもあり、道迷いを誘発する恐れがあります。2024年には下山者がこのルートで道に迷う遭難事案が発生しました。



ハエマツが道を隠している箇所



ルート表示が消えてる箇所

越百山登山道

⑥越百山登山道は降雨時には登山道が川になる箇所が多く、土砂流失による荒廃が他の登山に比べ著しく進んでいます。ルートの比較的登りやすく、山頂直下に村施設の避難小屋とトイレも設置されています。登山道補修や崩壊防止策が求められます。



登山道土砂流出箇所例



登山道土砂流出箇所例

他の町村はどうしてる？

南木曽岳登山道を持つ南木曽町、木曽駒ヶ岳登山道を持つ上松町、**いずれも登山口に駐車場とトイレを完備しています**。山に入ると山頂近くの山小屋までトイレはありません。登山者を受け入れる側で考えれば、登山口の駐車場とトイレの設置は基本です。しかし**大桑村は駐車場もトイレも設置していません**。つまり、登山する側からすれば、大桑村は登山を計画しにくい地域になっていると言えます。更に橋の流失や登山道の荒廃がその傾向に拍車をかけています。

大桑村ホームページにも**中央アルプス登山（山の国木曽を満喫）**と見出しが出ています。村内の各所から美しいアルプスの絶景を望むことができ、村内だけを通してそれらの山々の頂上にいく事ができる大桑村、他の地域には無いこの貴重な環境を後世に繋ぐならば、登山道が通行不能になる前に適切な対応をとる必要があります。

次回の調査レポートではこれらアルプス資源の将来展望について9月議会質疑応答を交え報告します。

特別な磁石のご紹介 - さくまゆみこさん@長野



2020年に東京から大桑村に移住。

ゆみこさんは翻訳家、編集者、アフリカ文学研究者。若い頃に訪れたアフリカでの体験から「アフリカ子どもの本プロジェクト」の代表。翻訳された本数は250以上、沢山の子どもたちに夢を届けています。そんなゆみこさんが須原の町中の立派な古民家を改装、こどもの本の図書館「バオバブ文庫」をオープン。本棚に並んだ世界中のこどもの本が大桑村のこども達に夢を届けます。もちろんゆみこさんとのおしゃべりもお楽しみ。



バオバブの木

バオバブの木は長寿の象徴、多くの生き物を支える命の木。バオバブ文庫は大桑村内外の子どもたち・おとなたちが集い繋がり、心を豊かにしてくるコミュニティの場、まさに大桑村のバオバブですね。